

春日神社

もくじ

宮司挨拶／祭典ごよみ
即位礼当日祭並大嘗祭当日祭
御即位奉祝行事
大嘗宮を参観して
ラグビーW杯関連行事
國學院大學院友会 落語会
婚礼部より／表彰・人事
初詣のご案内／厄祓いのご案内

社報 春日神社

新年号（第三十二号）

発行日 令和2年1月1日
発行者 〒870-0031
大分市勢家町4-6-87
春日神社 宮司 宮本隆之
TEL 097-532-5638
題字 東郷平八郎

ご挨拶

宮司 宮本 隆之

令和初めての新年を迎え、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄そして氏子崇敬者皆様の御隆昌をお慶び申し上げます。

天皇陛下には五月一日の踐祚より、御一世一度の大嘗祭を始めとして一連の御大典諸儀を恙なく挙げさせられましたこと、慶祝の極みと誠にお目出度く存じ上げる次第でございます。

当社に於きましては十月二十二日に関係者参列のもと即位礼当日祭を斎行したほか、大分市内平和市民公園能楽堂を会場に「御即位奉祝雅楽演奏会」を開催し、約五百名の来場者とともに新帝御即位をお祝い申し上げました。

さて、平成二十九年が当社社殿戦災復興五十年にあたることから同年十月に記念大祭を斎行しました。その記念事業として御本殿のお塗替や教化リーフレットの刊行を行ってまいりましたが、昨年は御大典奉祝の意味も含めた境内社・巖島社の拝殿である浮殿のお塗替、そして当社春秋の大祭を中心とした四季の社頭風景また戦災前の社殿や造営途中の写真などを織り込んだ記録DVD「時をつなぐ大分の古社 春日神社」を作成し、一連の事業を完了致しました。

県都の発展が背景にあるとはいえ、戦後二十余年にして、現在あるこの社殿の造営に尽力し完成された当時の神職や総代の労苦は如何ばかりかと拝察致します。復興から五十年を経た社殿を前にして、あらためて日々のご崇敬をお寄せ下さる氏子崇敬者皆様に対して厚く感謝申し上げますとともに、地域とともにある変わらぬ神社の姿をお守りしつつ、先人のご意志に恥じぬような専心奉仕を思う次第でございます。

昭和から平成、そして令和という新御代がはじまりました。ご関係皆様にとりまして、令和二年が輝かしい一年となりますよう御祈念申し上げて年頭のご挨拶とさせていただきます。

祭典ごよみ

一月 一日 歳旦祭

元旦にあたり、皇室の弥栄と国家の繁栄、氏子崇敬者の安寧をお祈りします。

二月 九日 初午祭（摂社 稲荷神社）

本殿の西側に鎮座するお稲荷さんの例祭です。五穀豊穡と産業発展を祈念します。

二月 十一日 紀元祭

日本の国の誕生を祝う祭典です。雅楽の伴奏で国歌を斉唱します。

二月 十七日 祈年祭

本来は農耕儀礼に基づくお祭りですが、今日では稲作のみならず殖産工業すべてに亘って、この一年間の恵みを願う祭典です。

二月 二十三日 天長祭

今上天皇ご誕生の日を慶祝する祭典です。

四月 十二日 春季大祭宵祭

春の大祭のうち、前日祭です。二日間にわたり庄内神楽が奉納されます。

四月 十三日 例祭

当社で一番重要な祭典です。神社本庁からの献幣使を迎えて執り行われます。

四月 二十九日 昭和祭

昭和天皇の御誕生日にあたり、御聖徳を仰ぎ、激動の昭和を偲ぶ祭典です。

五月 一日 摂社金比羅社祭

本殿東側に鎮座する、通称「こんぴらさん」の例祭です。



大分っ子神楽まつり in春日神社

当社では我が国の伝統文化の継承を常に運営の基ととらえて諸活動をおこなっております。そうした中、NPO法人ふるさと伝統文化協議会よりお話を頂き、十月十九・二十日の両日、当社秋季大祭の神賑行事に併せ、ラグビーワールドカップ関連イベントの一環として、大分っ子神楽まつりを開催致しました。

時代を担う子供たち九団体が集まり、多くの人出の中、日頃の練習の成果を発揮し、舞にお囃子に臨んでおり、大人にない柔軟さ・可愛らしさ、なかには大人顔負けの演技をする神楽座もあり、沢山の人々に和やかな時を与えてくれた二日間でありました。



國學院大學院友会 落語会

当社参集殿を会場として八月二十五日(日)、若手噺家と県内で活躍の矢野大和氏が主宰する落語会による『美女と國學院大學OLDBOYSの会』が開催されました。今回の催しは國學院大學院友会大分県支部総会にあわせて企画されたもので、大學OBでもある鷹取屋社宮司・矢野大和氏と春風亭朝之助氏に加え、林家なな子・林家つる子・林家あずみ(三味線漫談)の若手女性噺家さんが出演いたしました。

口演を楽しみにしていた多くの方々が会場は一杯となり、最後まで賑やかな笑い声が響き、盛況の内に閉会しました。





大嘗宮正面 最大80分待ちになるほどに多くの人が参観

【大嘗宮を参観して】

昨年十一月二十一日より十二月八日までの十八日間、大嘗祭が滞りなく斎了した皇居東御苑に設けられた大嘗宮が、平成時同様に一般参観となりました。期間中紅葉が見ごろを迎えた乾通りの一般公開も重なり、参観者は平成時の44万人を大幅に上回る、約78万人もの人出となりました。当社も職員の研修として、期間中二班に分かれて参観させて頂きました。幅広い世代の日本人はもちろんのこと、多くの海外旅行者が参観されていたことが印象に残りました。世界で最も古い王室である日本の皇室に対して、一連の御代替わりにともなう行事に国内外を問わず、関心が寄せられている現われだと実感しました。



膳屋、帳殿、柴垣の壁面には「^{しい}椎の^{わえ}和恵」とよばれる椎の小枝を挿す

大嘗祭の始まり

大嘗祭は天皇が即位後初めておこなう新嘗祭のことです。その祭場となる大嘗宮は常設の建物ではなく、臨時に設ける特別な建物であり、大嘗祭斎了後は直ちに解体焼却されます。大嘗祭と新嘗祭が区分けされ定まっていたのは第四十代天武天皇の頃といわれています。



皮付きの櫓(ヤチダモ)で作られた神門

大嘗祭の経費と規模

即位後、一世一度の重儀とされる大嘗祭ですが、おこなうにあたっては莫大な経費を要します。そのため、中世、室町戦国から約二百年の間、国の動乱によって、大嘗祭をおこなえなかった歴代天皇もいらっしやいます。(この頃は伊勢の神宮の式年遷宮もおこなえなかったほです。)

その経費ですが、平成度は22億円にのびりました。大嘗宮は歴史上さまざまな規模・形態で設営され、近代以降は大正・昭和に定型化。平成度は、昭和大礼の際の大嘗宮に準じて設営され、その費用は14億円となりました。今時の大嘗祭は当初、27億円を見込み、大嘗宮については物価の上昇、材木の高騰などにより19億円を見込んでいましたが、明治以降大嘗宮建設に携わってきた清水建設が様々な条件のもと9億5千万円で請け負いました。基本的には前回の平成度に準拠しつつ、一部施設の規模変更や儀式の本義に影響の無い範囲で、屋根材や構造材などを見直し、建設コストを抑えたものとなり、大幅な費用の削減がなされました。

平成度と比べ、変更されたのは次の通り。①皇族の減少、当日の参列者の縮小に伴う建物の縮小(小忌幄舎、殿外小忌幄舎他)。②儀式の本義に影響のない範囲での工法・材料(組立式・白帆布屋根他)の見直し(膳屋、斎庫、雨儀廊下他)。そして③主要三殿(悠紀殿、主基殿、廻立殿)の屋根を萱葺から板葺に変更したことです。昭和度まではほとんどの建物が萱葺でしたが、平成度は悠紀・主基・廻立の三殿のみを萱葺とし、帳殿、小忌幄舎、殿外小忌幄舎、膳屋及び斎庫についてはウッドシンダール(カナダ杉の割り板)の板葺となりました。そして、今後は主要三殿も板葺となり、古えからの伝統・文化がまた一つなくなってしまうことは悲しいことです。報道等でも費用面の数字ばかりが先導し、祭儀の継承、技術者の技の伝承など次世代に引き継ぐべき事案はほとんど議論の対象にならなかったことは残念なことですが、その時代の人々が熟慮に熟慮を重ねた上での結論となったのだと信じていものです。



垣根に使用したよしず・柴垣は皇居庭園にて再利用

大嘗宮の材料

大嘗宮の材料については申すまでもなく国産の材木を使用します。(平成度は一部外材を使用。前述の通り。)鳥居形式の神門に使用する北海道産の櫛(ヤチダモ)皮付丸太を始め、長野県産の唐松皮付丸太、静岡県産の杉皮付丸太、その他にも奈良県、京都府等からも調達され、その量は550mにもなります。また大嘗宮は大小約40棟の建屋で構成され、悠紀殿と主基殿および廻立殿は、皮付きの丸太をそのまま使用する「黒木造り」と呼ばれる古代工法そのままの簡素な造りとなり、柱は唐松の黒木、悠紀殿と主基殿の二棟は屋根上に千木(悠紀殿は平らの内削ぎ、主基殿は垂直の外削ぎ)と勝男木を備えています。大嘗宮の起源については未だ明らかになってはいませんが、奈良・平城京跡よりその遺構が見つかっており、平安時代の「貞観儀式」等に沿った大嘗宮が現代まで伝えられています。清水建

設では「出雲大社平成の大遷宮」を納めた熟練の工事長を責任者に据え、社寺建築の経験者を集めた全社横断のプロジェクトチームを結成し、全国より宮大工を集結させ、事にあたりました。かつては五日間で設営されていた大嘗宮ですが、近年は約半年ほどかけて設営。工事が最盛期を迎える八月下旬からは120人に上る宮大工が腕を競いあい、見事完成しました。

解体後の行く末

祭儀後、建屋は全て解体され、材木は焼却することが慣例とされており、平成度は全て焼却されました。この処理方法については当時、多くの批判もあったとのこと。かつて大正・昭和の際は、大嘗祭が行なわれた京都周辺の寺社や教育施設、公共施設等に建物や材木が御下賜された経緯がありました。

しかしながら今次、宮内庁では政教分離やコスト面の問題、さらには無乾燥の部材や接続部にくぎ穴や溝などがあり、製材して住宅建材にするには不向きなことから、火力発電のバイオマス燃料として、再利用することとなりました。今般も台風、地震等にて被災され各寺社や施設に払い下げれば、被災者の励ましになったかと思いますが、やむを得ずといったところではないでしょうか。また柴垣やよしず、砂利については皇居内、赤坂御用地で垣根や庭園の補修工事の材料として再利用されるということです。



内削ぎ千木の悠紀殿(手前)



大嘗宮後方 天皇陛下が潔斎される廻立殿(左) 外削ぎ千木の主基殿(右)



祝祭の広場にてチキリンばやしの披露

昨年、わが国でラグビーワールドカップが開催され、そのうち大分市昭和電工ドームでは五試合が行われました。大分市他からの依頼により、当社を含めた市内五社の神輿会からなる「豊後神輿を繋継する会」の青年たちが期間中およそ一ヶ月にわたり、W杯開催を盛り上げるべく活動を展開しました。「豊後神輿との出会い」をテーマとして、県立美術館OPAMに各社の神輿を展示。当社に残る府内藩主大給松平家から奉納された大神輿も三十数年ぶりに繰り出し、今秋市中心部に完成したばかりの「祝祭の広場」でのイベントの参加や、ファンゾーンでは海外からの来県者にも神輿練を体験してもらうなど、県をあげて盛り上がるW杯に華を添えました。

パブリックビューイング会場他でのイベント参加



府内藩主大給松平家奉納大神輿



神輿くぐり

即位礼当日祭 並大嘗祭当日祭

天皇陛下には昨秋、御即位に伴う一連の行事の中、最も重儀とされる即位礼正殿の儀、並びに大嘗祭に臨まれました。

【即位礼正殿の儀】（十月二十二日（火））

まず午前九時、即位の旨を宮中三殿賢所に御奉告。当日は昨晩より続く雷雨や強風の荒れ模様の天候であり、国民ひとしく心配する中、午後一時になりますと風はピタリと止み、晴れ間が見えだしました。儀式には束帯・十二単姿の成年皇族を始め、国内より安倍総理大臣を始め各界の代表、そして海外より王室や国の元首等百七十四か国、総勢約二千人が参列。天皇陛下は高御座に登られ、即位を内外に宣明されました。



大嘗祭前二日大祓式

【大嘗祭】（十一月十四日（木）～十五日（金））

十四日夕刻より十五日未明にかけて皇居東御苑内に設けられた大嘗宮にて皇位継承に伴う一世一度の重要な祭儀、大嘗祭に臨まれました。当日は齋田として特別に選ばれた悠紀国栃木県の献穀米「とちぎの星」、主基国京都府の献穀米「キヌヒカリ」を始め、全国各県より特産品五種が庭積の机代物として御神前に御供えされました。（大嘗宮については次頁に掲載）

当社ではそれぞれの日に併せ当日祭を齋行致しました。即位礼当日祭には総代・敬婦・氏青や関係各位が参列。また境内には大嘗祭当日までの期間中、御即位をお祝いしての記帳所を設け、約三千人の方が記帳されました。

尚、記帳簿につきましては県神社庁を通じて宮内庁へお届けしております。

そして大嘗祭当日祭に先立ち、宮中同様「前二日大祓式」を行ない、祭典当日には通年の新嘗祭に献じる新穀や黒酒白酒に加えて、庭積の机代物として大分県献納の「ひじき、かんしょ、干し椎茸、梨、かぼす」を御神前に供え、我が国の平安、御皇室の弥栄を祈念申上げました。

記念事業

奉祝行事

雅楽演奏会

即位礼正殿の儀に合わせた十月二十二日に、当社主催の御即位奉祝雅楽演奏会を開催いたしました。会場である大分市能楽堂には約五百名の参観者が来場、始めに宮司から「新帝の御即位を心からお祝い申し上げます」と挨拶。演奏は蓬菜

雅楽会が担当し、まず慶事にふさわしく「君が代」を合奏、続いて管絃「平調音取」「鶏徳」「五常楽」と舞楽「陵王」「落躑」「長慶子」が披露されました。



奉祝事業 厳島社浮殿 塗替



御大典を記念し奉祝事業といたしまして、経年による退色・剥落が目立っていた浮殿の塗り替え工事を行いました。色鮮やかに塗りなおされたことで、池に映る姿も際立つようになりました。

【挙式プランのご紹介】

挙式プラン 250,000円（税込）
※別途、挙式申込金1,000円

プラン内容

- ◎**挙式** 特式（雅楽生演奏、巫女舞）
- ◎**衣裳** 紋付袴、白無垢（かつら、着付、メイク含む）
- ◎**写真** 親族集合、お二人の正式写真（六切り）
- ◎ 前撮りや引出物の手配、お食事
会場のご紹介なども承ります。

詳しくはお問い合わせください。

春日神社 婚礼担当

TEL 097-532-5638

受付時間 9:30～17:00



春日物語 お年玉フェア

令和二年一月三日（

十五日

九時三十分～十七時

見学当日に仮予約頂いた方に、素敵な成約特典をご用意しております。初詣のおり、開催中の好きな時間にぜひ訪れてみてください。

※ご予約優先

表彰

◎全国神社総代会規定表彰

責任役員 長瀬 良理

◎神社庁定例表彰

神宮大麻頒布優良奉仕者

宮司 宮本 隆之

◎神社庁大分支部定例表彰

永年勤続（二〇年）

総代 太田 光則

人事

退職

令和元年 八月三十一日付

用務員 田中 香

初詣のご案内

例年三が日の初詣参拝者は約三十万人を数えます。本年もこの多くの方々をお迎えするべく準備に

かかりました。熊手や福笹・千支土鈴など数多くの縁起物がある中、社務所内では神職巫女が手分けをして連日破魔矢の奉製作業を行っています。

駐車場は境内春日公園を開放するほか、隣接の「フレスポ春日浦」も利用できますが、大晦日から周辺の進上路については交通規制が行われますのでご注意ください。

◎指定車両以外進入禁止

12月31日午後9時より 1月7日午後3時まで

◎指定方向規制

12月31日午後11時より 1月1日午前5時まで
1月1日午前8時より 1月1日午後8時まで
1月2日午前8時より 1月2日午後7時まで
1月3日午前8時より 1月3日午後7時まで



国道10線の中春日交差点から春日神社に向った場合、右車線は春日公園内駐車場へ、左車線はフレスポ春日浦駐車場への進行となります。

厄祓いのご案内

昔から日本では災難の起こりやすい年廻りとして、ある時期の年齢を「厄年」として忌み慎んできました。厄年というのは、一般的に男性が25歳・42歳・61歳、女性が19歳・33歳・37歳で、特に男性の42歳、女性の33歳は大厄と言われ、その前年を前厄、当年を本厄、翌年を後厄として前後3年間を特に忌み慎む慣わしとなっています。

この厄年の年齢は、社会的にも重要な役割を担う時期にもあたり、肉体的にも精神的にも調子を崩しやすい注意すべき時期とも言えるでしょう。

謙虚に、感謝の心で神様に手を合わせ、神々のご加護で無事に過ごせるよう祈りください。神社ではいつでも厄祓いのご祈願を奉仕いたしております。

〈令和2年の厄年表〉※年齢は数え年

女 性						男 性				
61歳	37歳	34歳 (後厄)	33歳 (本厄)	32歳 (前厄)	19歳	61歳	43歳 (後厄)	42歳 (本厄)	41歳 (前厄)	25歳
昭和35年生	昭和59年生	昭和62年生	昭和63年生	平成元年生	平成14年生	昭和35年生	昭和53年生	昭和54年生	昭和55年生	平成8年生

※ご祈願料はお一人様五〇〇〇円となります。
※男女の数え61歳は還暦のお祝いの歳にも当たります。
同窓会など団体での申し込みの場合は、社務所までお問い合わせください。